独断一束

岸田國士

青空文庫

思想

芸術としての思想の魅力は、芸術家が、その思想を、軽く掌の上にのせてゐる時にのみ、われわれの心を動かす。

時代意識

時代意識がない、それで、その作品に、なにか大事なものが欠けてゐるやうに思ふのは、創作を深呼吸と間違へてゐるのだ。

健康な小児の、静かな寝息がわからないか。

慌てまいぞ、藪医者！

去年の星は、断じて、今年の星ではない——真面目に。

近代の日本

機智が重い靴を穿き、フアンテジイが片肌を脱ぎ、下らないことをむきになつて下らながる近代の日本。

喜劇

喜劇のわからないことは最も喜劇的である——悲劇のわからないことが、屡々最も悲劇的であるやうに。

遊戯

芸術は遊戯に非ずと云ふもの、遊戯も亦芸術たり得る論理を知らなければならない。

鑑賞

知つてゐることしか解らない——これが俗衆の「眼」である。

文芸の鑑賞は、もう一歩先から始まる。

新しいもの

旧いところがある、かう云つて新しいものを貶さうとする。

新しいところがある、と云つて、旧いものが貶せるか。

頭と心

頭で書くのがいけないさうである。

心は、それを聞いて、悲しむだらう。さもなければ、怒るだらう。

頭と心とは、それほど別々なものではない。

ある種の批評家に

——金を出せ。

——やる金はない。

——着物を脱げ。

——おれは裸でゐなければならない。

——貴様はおれの持たないものを持つてゐる。貴様はおれに何かを寄越す義務がある。

——何かを……それはわかつてゐる。だから、おれは、こんなに笑つてゐるぢやないか、泣きたいほどだのに。

「人生よ」と叫ぶ若き作家に

——大丈夫ですよ、お母さん、××博士が、きつと治(なほ)すと云ひま

した。

――いゝや、今度は駄目だ。

――駄目ぢやありません。

――今年は、お父さんの三年忌だ。

――此の××日です。

――×月××日……お前は知らないんだね、三年忌には仏が迎へに来るといふことを……。

――仏……お父さんがですか。

――あたしは、どうしても、まだ死にたくない。

――お母さん、その涙を拭きませう。（心の中にて）父上よ、耳を塞いでゐて下さい。

わが二三の読者に

――お父ちやん、遊ばない。

――何にして。

――ピンポン。

――うむ。もう少しあつちで遊んでゐな。今、お父さんは、仕事があるんだ。

――仕事……どんな仕事。

――いゝから、しばらく、向うへ行つておいで。

――だつて、母ちやんが……。

――よし、よし、お前は色んなことを覚えるな。どれ、その母ちやんは何処にゐる。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集19」岩波書店
　　1989（平成元）年12月8日発行
底本の親本：「言葉言葉言葉」改造社
　　1926（大正15）年6月20日発行
初出：「文芸時代　第二巻第二号」
　　1925（大正14）年2月1日
入力：tatsuki
校正：Juki
2009年3月16日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

独断一束

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/